



## 自治体意見交換会

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 一等空佐 山野正志）は、四月十六日（火）大宮駐屯地にて、埼玉県庁をはじめ各市町村の防災担当職員との意見交換会を実施した。

本会は、県内で発生する災害への自衛隊の対応状況と元自衛官の防災担当部門での活動状況の紹介を通じ、自治体と部隊との連携強化及び退職自衛官の採用促進を図る目的で毎年開催しているものである。

当日は、県庁の他、県内六十三市町村のうち三十六市町村から五十七名が参加。埼玉地本長の冒頭挨拶に続き、埼玉県を担任する第三十二普通科連隊が災害対応取組状況を、埼玉地本が防災担当部門への退職自衛官採用状況全般を、中部航空方面隊司令部援護業務課が元航空自衛官の自治体防災担当部門への採用状況を、それぞれ具体的に説明した。

その後、和光市の仲司（なか つかさ）危機管理監（元一等陸佐）から「切れない災害対応事務体制」と題して和光市における災害への対応要領が発表されると、熱心に聞き入っていた参加者から様々な質問や活発な意見交換がなされた。

最後に、部隊が保有する災害対応器材を参加者に実際に触れてもらい、有意義な意見交換会となった一日であった。

埼玉地本は今後も部隊と連携し、県内自治体との関係を強化し、迅速・確実な災害対応及び退職自衛官の防災担当部門への採用促進に努めていく。



災害対応状況について説明を受ける  
自治体防災担当職員



災害対応器材について説明を受ける  
自治体防災担当職員

## 大宮駐屯地でインターンシップ実施

埼玉地方協力本部（本部長 山野正志 一等空佐）は令和元年九月十九日、訪問入浴介護サービス業「アサヒサンクリーン株式会社」の協力を得て、大宮駐屯地でインターンシップを実施した。

同社は高齢者の方々の「お風呂で温まりたい。」との希望をかなえるべく、訪問入浴サービスを提供している他、訪問介護、デイサービス等の様々な福祉サービスを全国的に展開している企業である。今回は同社スタッフに駐屯地に来ていただき、駐屯地所在各部隊の援護担当者と退職後の再就職先として介護サービスに興味を持っている隊員ら約三十名を前に、介護福祉事業の詳細についての説明の後、通常の訪問入浴サービスと同様に専用の浴槽を設置、要介護者に扮した隊員を実際に入浴させながら、サポート要領を約一時間にわたり展示していただいた。

参加した隊員からは「高齢者福祉サービスの現場の様子を目の当たりにし、介護福祉事業の重要性を改めて認識できた。」「駐屯地内で企業の業務を直接研修できて大変有意義だった。」等の感想が聞かれた。

埼玉地本は引き続き、積極的にインターンシップを実施していく他、今回同様に駐屯地に企業を招き、広く隊員に企業の活動状況を紹介できるように各企業との連携を深め、就職援護基盤の安定と拡充に努める所存である。

